

まちのわだい

～カメラスケッチ～



ゴールネットなど寄贈

少年団などのスポーツ活動で活用する道具類を寄贈している(株)山田産業が1月25日、「銀河ジュニアF.C.2002」にゴールネット1セットとキーパーユニフォーム1着を寄贈しました。

山田社長は「がんばって練習してください」と話し、中島彩花主将(訓小6年)は、「大切に使用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。



東町薬局からマスクの寄贈

新型コロナウイルス感染防止対策に役立ててほしいと1月20日、不織布マスク3,800枚(50枚入り76箱)が東町薬局から町に寄贈されました。

東町薬局の猿丸元久局長は「新型コロナウイルスの感染者が増加しているので、町民の皆さんの健康管理に役立ててください」と話し、菊池町長は「善意に感謝し、有効活用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。

寄贈されたマスクは、町内の福祉事業所などを中心に配布しました。



居小でふれあい集会

地域と学校の交流を目的として、ふれあい集会在1月27日、居武士小学校で開かれました。

当初はお世話になっている地域の方や保護者、こども園の年長児を招待する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症予防のため、当日は児童と教職員のみで行いました。

児童たちは、魚釣りやボウリング、射的など6つのゲームを準備し、役割分担を交代しながら楽しいひとときを過ごしていました。



訓中で認知症サポーター養成講座

訓子府中学校1年生32人を対象に1月25日、総合的な学習の時間で授業の一環として、認知症サポーター養成講座が開かれました。

町福祉保健課の保健師による講話を交えながら、グループに分かれて認知症について話したり、クイズなどを通して、生徒たちは認知症の学習を深めました。

講座終了後には、生徒たちにサポーターカードとオレンジリングが渡され、認知症サポーターとして認証されました。



学生とオンラインで交流

アート・タウン・プロジェクトの一環として、1月27日、28日に武蔵野美術大学の学生とオンラインで交流しました。

27日は、訓子府高校美術部の生徒10人と大学生活についての情報提供や作品づくりに関する専門的な助言を通して、交流を深めていました。

28日は、町民15人が武蔵野美術大学の学生の作品を鑑賞し、作者の考えや鑑賞した感想などを対話しながら楽しみました。

学生は「作品を見てもらい、自分も感じていなかった感想を聞くことができ良い経験になった」と話していました。



今月の一枚

町の素敵な瞬間を紹介しています。

今月は「わくわく園の豆まき」です。

